

科目名		PC実習			
担当教員		渡邊 美歌		実務授業の有無	有
対象学科		建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		Excelの基本操作習得と検定取得のための対策を行う。就職後、実務で通用するアプリケーション操作を身に付ける事を目的としている。			
学習目標 (到達目標)		アプリケーション操作を身に付ける。検定試験に合格する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		Excelクイックマスター・講師が準備するプリント・サーティファイ検定問題集			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	Excelの基本操作・データの編集			Excelの基本操作、データの編集について学習する。Excelの仕様に慣れることを目標とする。多くの練習問題をこなし、操作の定着を図る。	
2	表の編集・練習問題			Excelでの数式の立て方、書式の付け方を学習する。セル参照を使用した数式の作成ができることを目標としている。	
3	グラフと図形の作成			Excelでのグラフ作成を学習する。グラフと元表の連動、グラフィカルで見やすいグラフ作成を目標とする。	
4	ブックの印刷・関数			Excelにおける印刷機能について学ぶ。また、関数の学習もスタートする。AVERAGE,MAX,MIN関数について理解し、使えることが目標である。	
5	ワークシートの管理・関数			Excelシートの操作について学習する。関数はROUND,ROUNDUP,ROUNDDOWNについて理解し、使用できることが目標である。	
6	関数			Excel関数について学習する。関数はIF,TODAY,DATEDIFについて理解し、使用できることが目標である。	
7	データベース機能			Excelデータベース機能について学ぶ。リストの概念、フィルタ機能について理解する。特に用語をしっかりと覚えることが目標。	
8	検定対策			サーティファイ表計算技能認定試験3級合格のための対策授業を行う。個人対応をしっかりとやり各自に合った対策を行う。	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	検定結果		しっかりとしたアプリケーションスキルを身につけ、そのスキルを形として残せるよう、検定合格も目指していきます。「わからない」をなくしながら繰り返し作業に取り組むことが大切です。	
10 %	20 %	70 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		企業のデータ処理等の請負業務、雇用対策講座・パソコン教室でのインストラクター業務			

科目名		一般構造Ⅱ			
担当教員		広川智子		実務授業の有無	有
対象学科	建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	建築を考えるうえで一般構造の基礎的な仕組みを理解しておく必要があります。そのために授業では、S造とRC造を中心に解説します。S造とRC造を理解でき、説明できるようになることを目指します。授業の進め方は、講義→2級建築士の試験問題→解説を繰り返します。授業後に評価テストを実施し、理解度を確認します。				
学習目標 (到達目標)	S造とRC造を中心に学び、2級建築士学会試験の科目範囲の合格点に達するための理解を目指します。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説やさしい建築一般構造 著者：今村仁美・田中美都 発行：(株)学芸出版社 ②配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	鉄骨造-1 ①鉄骨造の特徴 ②構造形式			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	鉄骨造-2 ①接合部 (リベット、普通ボルト、高力ボルト)			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	鉄骨造-3 ①接合部 (溶接)			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	鉄骨造-4 ①部材の設計 ②各部の構造			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
5	鉄筋コンクリート造-1 ①コンクリート造 ②コンクリートの強度			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	鉄筋コンクリート造-2 ①鉄筋の特徴 ②鉄筋コンクリート造の基礎知識			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	鉄筋コンクリート造-3 ①鉄筋の配筋計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8	鉄筋コンクリート造-4 ①せん断補強筋比の計算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
9	その他の構造 ①SRC造・補強コンクリートブロック構造 ②組積造・プレストレストコンクリート造			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト	期末テスト	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について解説します。 2年の前期はS造、RC造について仕組みを中心に説明し、評価テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。 取組姿勢：授業態度、欠席、遅刻など総合的に判断します。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	住宅設計に10年以上従事				

科目名		建築デザイン実習Ⅱ			
担当教員		伊與部 聖奈		実務授業の有無	有
対象学科		建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		<p>年々進化を続け、新たな建築業界の主流になる「BIM」というツールを学び、身に付けていく。オートデスク株式会社のBIMソフト「Revit」の基本動作から、自分の表現したいことを適切に表現する方法や、実務で使える豆知識などを学んでいく。</p> <p>また、近年各業界で注目されている「REVIT Architecture ユーザー」試験の合格を目指し、正確な表現動作、知識、スピードを身に付ける。</p>			
学習目標（到達目標）		「REVIT Architecture ユーザー」試験を合格する。 オリジナルの作品を自由にモデリングできる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		<p>はじめてのRevit&amp;Revit LT</p> <p>オートデスク認定資格プログラム 試験対策/配布資料</p>			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	課題① REVIT Architecture ユーザー試験対策			過去問やテキストに繰り返し取り組み、試験に合格する力を身に付ける。併せて動作の正確性やスピードを身に付ける。	
2	テキスト解説			教師がテキストの内容のデモンストレーションを行う。解説を聞きながら学生も同時進行で作業をし、試験で問われる内容を確認する。	
3	テキスト内容のやりこみ			テキスト内容を何度もやりこみ、基本動作を定着させるとともに、正確に動作ができる訓練を行う。	
4	スピードを意識した通し練習			試験時間内で正確かつ短時間で動作ができる練習を行う。	
5	課題② ワークシェアリング			設計課題に取り組み、ワークシェアリングを利用してモデリングを行う。	
6	ワークシェアリング			複数人でモデリングできるワークシェアリング機能が適切に使用できるようになる。	
7	モデリング表現の向上			表現したい内容について、各自で方法を模索しながら自由なモデリング表現ができるようになる。	
8	スケジュール管理			自分の作品に対して、自分でスケジュール管理ができるようになる。担当教員と相談し、スケジュールを見直しながら課題の締切にきちんと完成させて提出する。	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題内容	ユーザー試験合格	課題提出締切		<p>「BIM」は、建築業界及び自分の可能性を広げるツールです。中でも「Revit」はこれから主流となっていくであろう重要なソフトの一つです。それを学生のうちに使いこなせるようになっておくことと社会に出てからの活躍の幅が大きく違うはずです。ぜひいっぱい触って、楽しみながら技術を身に付けましょう。</p>	
60 %	30 %	10 %	%		
<p>成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。</p>					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務4年			

科目名		建築計画Ⅱ			
担当教員		熊谷貴子		実務授業の有無	有
対象学科	建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	非住宅建築物ごとの、種類・規模計画・動線計画・平面計画・断面計画・設備計画・関連用語などを学ぶ ・教科書で用語・数値など重要項目をチェック ・重要事項のまとめ板書 ・確認問題の実施+提出 ・テストで学習達成度を確認				
学習目標 (到達目標)	2級建築士試験の学科<計画>に対応できる知識を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	○図説 やさしい建築計画 (学芸出版) 各自で準備 ●教科書をチェックするマーカーペン ●板書を記入するノート				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	小学校・中学校			運営方式、動線計画、教室計画、関連用語を学ぶ	
2	幼稚園・保育所			幼稚園と保育所の違い、幼乳児に配慮した各部計画を学ぶ	
3	確認問題1			学習内容の確認+提出	
4	図書館			種類、構成、動線計画、閲覧形式、書架配置、用語を学ぶ	
5	博物館・美術館			種類、構成、動線計画、巡回形式、照明計画、用語を学ぶ	
6	確認問題2			学習内容の確認+提出	
7	劇場・映画館			種類、構成、動線計画、舞台形式、客席計画を学ぶ	
8	事務所			レントプル比、コアプラン、事務室の計画、関連用語を学ぶ	
9	確認問題3			学習内容の確認+提出	
10	期末テスト			学習達成度を確認する	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
テスト	提出物	取組姿勢		様々な建築物の計画を学び、身近な建築物の計画に興味を持って接していきましょう	
70 %	20 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建設会社にて設計補助・インテリアコーディネーター、職業訓練校にてCAD・製図の外部				

科目名		建築計画演習			
担当教員		本間裕		実務授業の有無	有
対象学科	建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	演習	時間数	45
授業概要、目的、授業の進め方	ミュージアム（美術館・博物館）の建築計画を学びます。計画の概要を学んだ後、各自でエスキースから作図を進めてもらいます。				
学習目標（到達目標）	ミュージアム（美術館・博物館）の建築計画を習得し、成果品である各図面を完全なかたちで提出すること。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント配布(PDF)				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	建築計画の概要		ミュージアム（美術館・博物館）の建築計画の概要を学ぶ 法規・構造・設備などハード面も必要な部分を抜粋して学ぶ		
2	テーマの設定		課題に対する各自のテーマを詳細に詰める コンセプトシートを提出		
3	エスキース		テーマに沿ってエスキース、デザインの検討 詳細まで詰めること		
4	作図		平面配置図、断面図、立面図を作成 提出		
	※課題「市街地に建つミュージアム」				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題	取組姿勢			実際、自分でミュージアムへ足を運ぶことをお勧めします。よく美術館や博物館の空間構成を研究してください。	
90 %	10 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)					
B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)					
D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建築設計監理実務37年 一級建築士事務所主宰26年				

科目名		建築計画演習			
担当教員		羽二生 道夫	実務授業の有無	有	
対象学科		建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		保育園について学びます。配置図、平面図、立面図、断面図に表現できるようにスケッチで準備します。			
学習目標 (到達目標)		自分の案をスケッチで表現して、図面でプレゼンができるように準備します。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		プリントを配布します。			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	保育園の計画の授業を行います。			基本的な事を学びます。	
2	保育園の計画の授業を行います。			部屋ごとに基本的な事を学びます。	
3	保育園のトレースを行います。			実際の保育園をトレースして表現方法を学びます。	
4	今までの勉強を基にして保育園を計画します。			各自の案を配置、平面、立面、屋根伏せ、断面図で計画します。	
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題評価 80 %	取組姿勢 20 %			【評価基準内訳】 課題評価：課題内容の評価40%、図面表現40% 取組姿勢：平常点10%、授業態度10%	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。				正確・丁寧な見やすい図面を書けることを目指す。保育園の計画では使いたい健康的な建築を目指しそれを図面に的確に表現できることを目標とする。	
実務経験教員の経歴		設計実務41年			

科目名		建築施工Ⅱ			
担当教員		渡邊 晋太郎		実務授業の有無	有
対象学科	建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		2年次は屋根工事の分野から学んでいく。 この前期では、その他の内外装工事のいろいろな施工方法や製品管理の仕方、材料の種類などを詳しく学び、それが理解できる様になることを目的とする。 後期に目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 建築施工（学芸出版社）、配布資料			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	屋根工事		屋根工事の種類を覚え、雨仕舞の施工方法を理解することができる。		
2	防水工事		防水工事の種類を理解し、納まりや手法を理解することができる。防水の一種でもある【シーリング工事】も一緒に学ぶ。		
3	左官工事		左官工事にかかわる材料の種類を学び、それをどのような工程で施工していくのかを理解する。		
4	タイル工事		タイルの種類を理解し、その施工方法を学ぶ。		
5	石工事		張り石工事の施工方法の種類を理解することができる。		
6	内装工事		内装工事の施工方法の種類を理解することができる。		
7	順次 評価テストを実施する。 (2回以上実施予定)				
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末試験	評価テスト	取り組み姿勢		%	
50 %	40 %	10 %		%	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務12年			

科目名		建築法規 II			
担当教員		本間 陽貴		実務授業の有無	有
対象学科	建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	「建築法規 II」は、1年次の基礎知識を基に、二級建築士試験・実務に対応出来る建築法規の習得を目的とする。授業内容に伴い、基準法・施行令・告示等の関連を練習問題等で確認して条文の理解を深める。				
学習目標 (到達目標)	二級建築士取得に必要な建築法規の知識習得を目指す				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「図説やさしい建築法規」・著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社、「建築関係法令集」発行所：(株)総合資格学院				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	防火地域・準防火地域・法22条区域			防火地域(準防火地域)内に関する建築物の規定を説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
2	耐火構造・準耐火構造・防火構造等			建築物の耐火性能、防火材料に関する説明。また、用途・規模等による必要な構造の確認。(建築基準法 別表1による確認) ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
3	大規模建築物の防火区画			大規模建築物の用途・規模等による必要な防火区画・種類等を確認。防火区画の各種構造等を説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
4	特殊建築物の内装制限			建築物の用途・規模等による必要な内装制限があることを説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
5	避難施設(避難経路・直通階段・避難階段・排煙設備・非常用の避難施設)			廊下・階段等の必要な幅・出入口等、排煙設備・非常用の照明・進入口・昇降機の設置基準、構造が理解する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
6	構造強度(木造) ※この項目は、時間があれば行うものとしてします			木造建築物の構造強度に関する規定を説明。また、構造計算・許容応力度計算の説明と確認を行う。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	取組姿勢		法令は建築の全てで、つながっています。1年生で習った授業を思い出しながら、その関連する条項条文を確認できるように法令集を使いこなせるが大切です。いづれ皆さんの役立つ時がくると思いますので、難しく考えず、一緒に頑張ってください。	
50 %	30 %	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	公共・住宅設計に10年従事				



科目名		構造力学II			
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有
対象学科	建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1年次に習得した反力及び応力の基礎知識を基にすすめる為、まずはこれまでに得た知識の定着を確認する。その上で断面の性質について学び、様々な問題を通して習得する。更に1年次で学んだ部材に生じる力を基に、応力度に関する知識を習得する。各項目について理解状況の確認の為テストを行う。				
学習目標 (到達目標)	部材の断面に作用する力の種類と性質を理解し、断面に係る力の算定方法を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい構造力学・配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	断面一次モーメント(図心)			図心を理解して断面1次モーメントを学び、例題を利用して解法を習得する。	
2	断面二次モーメント			中立軸を理解し、例題を利用して断面二次モーメントの解法を習得する。	
3	断面係数			断面係数を理解して解法を学び、例題を利用して断面二次モーメントと共に習得する。ここまです評価テスト1で確認する。	
4	軸応力度			軸応力度とひずみ度の関係を理解し、軸応力度の解法を習得する。	
5	曲げ応力度			曲げ応力度を理解し、曲げモーメントとの関係を習得する。	
6	せん断応力度			せん断力とせん断応力度との関係を理解し、せん断応力度の解法を習得する。	
7	許容応力度			材料の塑性による限界値を学び、その値より小さい許容値=許容応力度について習得する。	
8	許容曲げモーメント			曲げ応力度が許容曲げ応力度に達するときの曲げモーメントの値=許容曲げモーメントについて習得する。ここまです評価テスト2で確認する。	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト1 40 %	期末試験 50 %	— — %	取組姿勢 10 %	構造力学は建築士試験に於いて点数の稼ごどころとなる部分です。全ての項目に於いてその後の問題を解くために確実に身に付けていかなくてはなりません。分からないところを分からないままにせずしっかりと身に付けて次に進むようにしましょう。解けた時の達成感を楽しみながら学習しましょう。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	住宅設計に11年間従事				

科目名		材料実験			
担当教員		田中 みちよ		実務授業の有無	有
対象学科		建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実験	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		実験で経験したことは、社会に出てからの実務や建築士試験を受験する時に思いがけず助けになる。逆にひとつひとつの意義がわかるのは、少し時間が経ってからとも言える。 実験をとおして、コンクリートの各材料（セメント・細骨材・粗骨材）の特性を知る。 コンクリート調合設計の基本を知る。			
学習目標 (到達目標)		コンクリートの品質管理と、建築物の工事監理及び施工管理における材料管理法の知識を得る。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布プリントを主とする。必要に応じて建築一般構造・建築材料テキストを引用する。			
NO.			学習方法・準備学習・備考		
1	骨材の密度試験・吸水率試験		細骨材・粗骨材の密度と吸水率を調べ、コンクリートの骨材として適するかどうかを確認できる。		
2	骨材ふるいわけ試験		細骨材・粗骨材の粗粒率と粒度分布を知り、それがコンクリートの骨材として適するかどうかを確認できる。		
3	セメント密度試験		セメントの密度試験の結果から、セメントの種類と風化の程度を知ることができる。		
4	コンクリートの調合設計		各実験データをもとに、コンクリートの調合計算を行い、各材料の質量・容積を求めることができる。		
5	供試体の製作、養生		先に求めた量でコンクリートを練り、各水セメント比での圧縮試験用供試体を製作する。更に標準養生にて養生を行う。		
6	コンクリート圧縮強度試験		圧縮試験を実施し、各水セメント比における試験データを分析し、水セメント比と強度の関係を知ることができる。		
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末試験	取組姿勢			この実験はグループ作業であり、社会に出てから特に重要となる協調性も視野に入れている。実験態度、グループ内での協調性、レポート、試験で総合的に評価する。 また、高価な器具と危険な動作もあるため、別紙注意事項を遵守する。	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建設会社及び建築設計事務所(自営)で、施工管理・積算・品質管理の実務31年			

科目名		就職実務Ⅱ			
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有
対象学科	建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	就職に向けた準備をして実行に移す。就職を希望する学生はすでに就職活動を開始しているが、内定に向けて更に力を入れて取り組む。進学を希望する学生にとっても、就職活動は来年の今頃にはすでに始まっていることを念頭に置き、それに向けて取り組む。様々な仕事をイメージして自分に適した業種・職種を見つけ出す。適宜企業見学・現場見学なども行い、更なる意識付けを図る。今後必ず必要となる文章作成に向け適宜レポート提出課題を出題する。更にコミュニケーション能力検定を実施し、合格を目指す。				
学習目標 (到達目標)	自分を知り、企業を研究して、自分に適した業種・職種を見つけ出す。就職活動の流れをイメージして、実行に移す。また、ここでは社会人としての振る舞いを意識し、この点でも評価の対象とする。更に、コミュニケーション能力検定の合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Success・配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	就職活動を行う際の注意事項の再確認			就職活動を行うにあたり、学校への様々な提出書類を再確認する。更に、企業訪問やガイダンス等に参加する際の注意事項、企業とのアポイントメントの取り方等を再確認する。	
2	就職活動の心構えと具体的な動き方の再確認			働く意義・企業が求める人材・身だしなみを再確認し、企業を選定する方法、及び、受験の方法を再確認する。	
3	進路に対する個別相談			学生に対して個別の進路相談を随時行い、考えを把握する。また、情報提供やアドバイスを適切に行い、就職活動・進路研究を円滑に進めていく。	
4	求職者に対する就職活動へのフォロー			学生の希望を確認した上で、求人等の情報を提供し、就職活動をする際の書類チェック、面接指導などを必要に応じて随時行う。	
5	建築士専攻科への進学希望者へのフォロー			資格取得後の就職を検討し、将来のビジョンを見つけることで、学習への意欲につなげる。進学前のポートフォリオ作成を促し、進学後の就職活動の円滑化を図る。	
6	ビジネスマナーの習得(課題1)			社会人としての振る舞いを意識する。言葉遣い・報連相・電話のマナー・メールのマナー・メモの取る等これらが当たり前に行えることを目指す。前期を通しての評価とする。	
7	作文・レポート等文章の作成(課題2)			作文・レポート等の文章作成に取り組み、「課題」に対して適切に応える能力を身に付ける。起承転結の文章構成・誤字脱字・段落についても習得する。	
8	ポートフォリオの作成(課題3)			就職活動で必要となるポートフォリオを作成する。これまでの作品を随時納める。納得のいく作品集となるよう、構成なども工夫する。最終授業日での評価とする。	
9				※半期を通して習熟を目指す為、番号通りには進まずに適宜取り組むこととする。ポートフォリオに関しては、これまでの作品に加え、自主的に完成度を高めることとする。	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題1	課題2	課題3	取組姿勢	求職者は既に就職活動を始めていますが、進学希望者にとって、就職のイメージはまだ明確でない人も多いと思います。しかし、就職活動は2年次の終わりころから本格的に始動します。その時になって慌てることの無いように準備を進めていきましょう。進路については迷っている人も多いと思いますが、まずは自分がどうしたいのかを明確にしましょう。明るい未来を想像して楽しみながら取り組みましょう。	
20 %	20 %	50 %	10 %		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		住宅設計に11年間従事			

科目名	卒業制作				
担当教員	井口 哲一・星野 麻子		実務授業の有無	有	
対象学科	建築設計デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	72時間
授業概要、目的、授業の進め方	1年次に学んだ住宅計画演習・製図・プレゼン技法Ⅰ・建築デザイン実習Ⅰ・建築設計演習Ⅰでの知識を活かして、オリジナルの空間を設計します。実際に参加する競技設計を念頭に置いた課題に対して、自分の思い描く空間をカタチにし、それを他人に伝える為の技術を学びます。課題は期限付きで提示しますので、前期では『期限に間に合わせる』を重点的に評価します。				
学習目標 (到達目標)	これまで培ってきた知識と技術を活かし、課題に対する発想力、オリジナルの建物・空間の提案力、他人に伝える為のプレゼンテーション力を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計 (学芸出版)				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	『建築コンペ』を理解する ・具体的な課題を提案する為のプロセスの確認 ・課題を分析しコンセプトを検討		まずはコンペのプロセスを確認し、内容とボリューム・流れを確認する。その後、出題された課題に対して、教科書やインターネットを利用して情報を収集する。		
2	課題を分析する ・課題を分析して出題の意図と趣旨の解釈		課題を分析し出題の趣旨を理解する為、教科書やインターネットを使い、課題の背景にある問題を理解し、出題の意図を探る。		
3	方向性を検討して設定する ・条件を整理して計画の方向性を設定		条件を整理して計画内容を決定する為に、設計条件をしっかりと理解し、内容を把握して、設計の方向性を明確にする。		
4	コンセプトを作成する ・方向性の確認とコンセプト・サブタイトルの設定 ・コンセプトと設計方針の発表		計画に対するコンセプトの重要性を認識した後、決定した方向性から、コンセプトを確定させる。更に、コンセプトを明快にするためサブタイトルを付ける。		
5	エスキースを作成する(課題1：提出) ・イメージを形にする ・ひらめきを記録する(思い付きのスケッチ)		確定したコンセプトをもとにエスキースを作成する。思い描くものを形にすることにに対しては工夫が必要なので、まずは思い付いたものをスケッチしてみる。		
6	コンテンツを作成する ・エスキースを基に図面やパースの作成		エスキースから各種図面やパースを作成する。ここでは、何を伝えるためのコンテンツなのかを明確にしておく。コンセプトに沿ったコンテンツを作成することが大切である。		
7	プレゼンボードを作成する(課題2：提出) ・タイトル・コンセプト・コンテンツ等をレイアウトする		作成したコンテンツをレイアウトし、プレゼンボードを作成する。全体の雰囲気や文字の効果などにも配慮して、見やすさ、分かりやすさを意識したレイアウトを心掛ける。		
8	プレゼンテーション(課題3：提出・実施) ・プレゼンテーションを行うための資料作成 ・プレゼンテーション実施		プレゼンテーションを行う為に、プレゼン資料を作成し、実際の発表を想定してプレゼンテーションの構成を決める。他人を惹きつける魅力のあるプレゼンテーションを行う。		
9			※提出課題は完成したもののみ受け付けます。完成させる為に何回かフィードバックが必要です。各自計画を立てて、何回もフィードバックを重ねたものを提出してください。		
10			※課題の仮提出やチェックの回数が決められています。それらを怠って本提出や最終チェックには至りませんので注意してください。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題1	課題2	課題3	取組姿勢	後期に実施される卒業制作に向けて、競技設計の流れと内容をしっかりと把握しましょう。自分は何にどれほどの時間を要するのか、知識や技術はどれほど習得できているのかなど、しっかりと把握して進めましょう。進め方には個人差があります。『自分』をしっかりと認識する必要があります。また、仕事において提出期限は必須です。完成物を提出出来ているか、厳しく評価します。	
20 %	20 %	50 %	10 %		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		井口先生：住宅設計に10年以上従事 星野：住宅設計に11年間従事			